
Half life

L i t a l y

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Half life

【Nコード】

N6002E

【作者名】

Litaly

【あらすじ】

人生のうちの大半を路上で過ごしたブルースミュージシャンがいる。サニーボーイ。彼の吹くハープが好きだ。

今という時代が特別なのか、昔からこうだったのか。

サリンジャーがあゝの時代から引き篋りをしてるってことはつまりまあ、そういうことなんだろう。

綺麗なものを見た気がするけど、それがいつだったのか、どこで見たのかももう忘れちゃったよ。

薄暗い高架橋の下でならジャック・ケルアックと話が出来ると思ったんだ。

この際バロウズでもいい。

でもみんな去った。

全部終わったんだ。

夏が終われば虫たちは空へ帰る。

そんな風にさ。

終わったんだ。

黙るべきなんだろうなと思う。

もう完璧に奴らの時代だ。

俺たちの出る幕じゃない。

西海岸の砂浜はもう踵で夢を彫れるほど綺麗じゃないんだ。

総和は行楽ビーチを望んだんだ。

夢なんかよりも休日のちよつとしたバカンスをつてね。

だからそうなった。

そういう形に。

結局のところそういうのがウケるし、金になるんだ。

ただそれだけの事だ。

なあ Bye Bye Bird をまたハープで吹いてくれよ。
そんな気分なんだ。

今時の鳥たちは遠い空じゃなくて超高層ビル群の影に消えるんだぜ。

そんな時代なんだ。

笑えないだろう？

あんたのハープはなんだかって嫌いじゃない。

どうせあんたはいつだってあの女の事ばかりだ。

でもそういうの、なんとなく分かるよ。

俺だって愛のために幾らかの金とライターと若さを差し出したんだ。

どれもベッドの上でね。

必死だったんだ。

でも、全部昔の話さ。

伝説の後始末は俺に任せてくれ。

あんたはその狭ッ苦しい墓石の中でイビキをかいてればいい。

あんたがあっちに行ってから今日までをもう一回くらい繰り返し返したら俺もそっちに行くから、そうしたらまたあんたのハープを聴かせてくれ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6002e/>

Half life

2011年1月12日20時31分発行